

# FUJITSU Software NetCOBOL

## 購入例：Linux

2020年9月14日時点

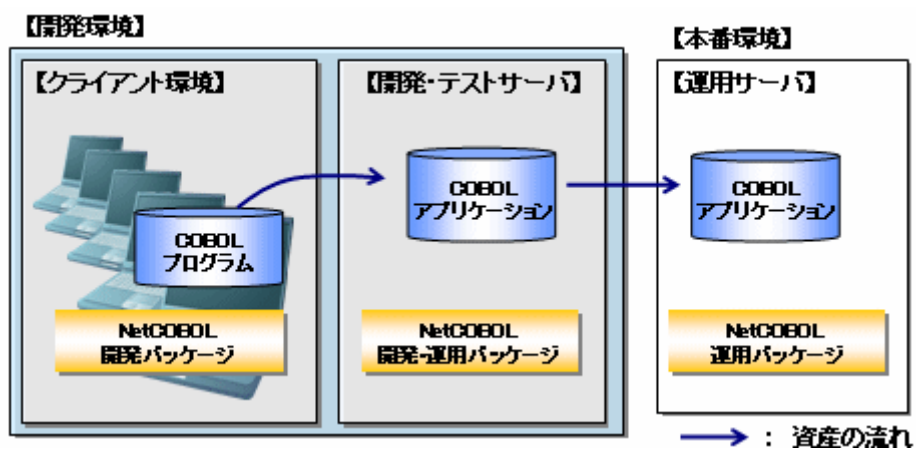
1. サーバアプリケーションを開発する場合 .....	2
2. Hadoop 連携機能を利用する場合 .....	4
3. Interstage Business Application Server と連携したアプリケーションを開発する場合 .....	7
4. Interstage Job Workload Server と連携したアプリケーションを開発する場合 .....	10

## 1. サーバアプリケーションを開発する場合

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に説明します。

1. クライアント環境にある各 PC で、開発環境（NetCOBOL Studio）を使って、COBOL アプリケーションをリモート開発します。
2. 開発・テストサーバで、各 PC の COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。
3. 運用サーバに COBOL アプリケーションを配置し、運用します。

### Windows 開発環境による開発



#### 【開発環境】

クライアント環境では、Windows (32bit)環境 PC (5 台) で開発環境（NetCOBOL Studio）を使って、リモート開発します。

開発・テストサーバ（Linux：8 プロセッサ）において、クライアント環境で作成した COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。

#### 【本番環境】

テスト終了後、運用サーバ（Linux：8 プロセッサ）に COBOL アプリケーションを配備し、運用します。

## 必要ライセンス

Windows の NetCOBOL 開発環境製品はインストール台数従量制、Solaris の NetCOBOL 開発環境および運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。NetCOBOL 製品のライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

### 64bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Windows NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ (32bit) <sup>(注)</sup>	5
開発・テストサーバ	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (64bit)	8
運用サーバ	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (64bit)	8

**注)** 上記購入例は、「開発・保守支援ツールを使って、画面帳票があるサーバアプリケーションを開発する場合」です。クライアント環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。また、リモート開発の場合は、V10.1.0 以降を使用してください。

### 32bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Windows NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ (32bit) <sup>(注 1)</sup>	5
開発・テストサーバ	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (32bit) <sup>(注 2)</sup>	8
運用サーバ	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (32bit) <sup>(注 3)</sup>	8

**注 1)** 上記購入例は、「画面帳票があるサーバアプリケーションを開発する場合」です。クライアント環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。

**注 2)** Windows システム上で Linux アプリケーションを分散開発するには、サーバ側の製品は、Enterprise Edition となります。

詳細は、Windows (32bit)のマニュアル「NetCOBOL V10.0 UNIX 分散開発の手引き」を参照してください。また、V7.3 以降を使用してください。

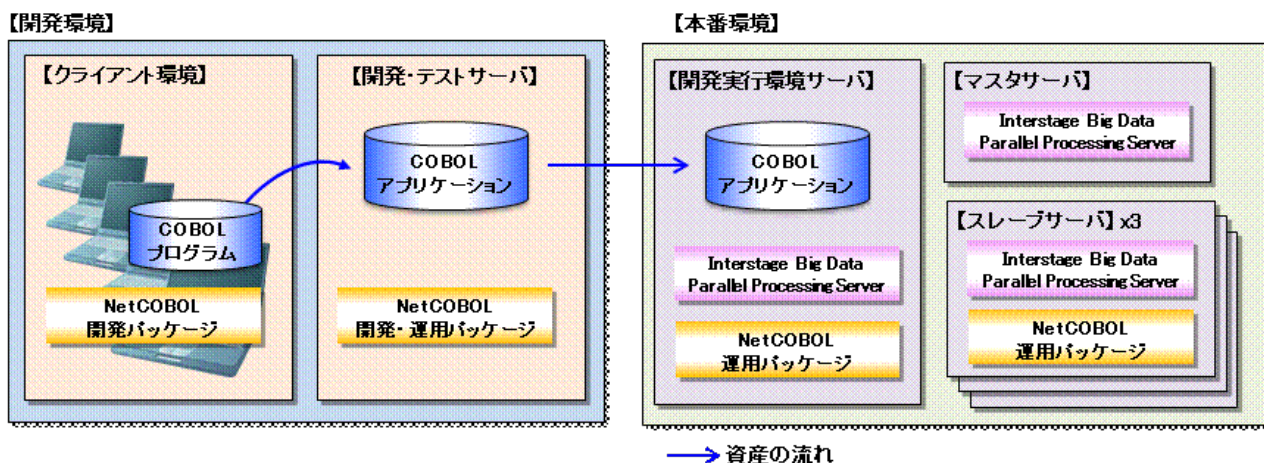
**注 3)** V7.3 以降を使用してください。

## 2. Hadoop 連携機能を利用する場合

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に説明します。

1. クライアント環境にある各 PC で、開発環境（NetCOBOL Studio）を使って、COBOL アプリケーションをリモート開発します。
2. 開発・テストサーバで、各 PC の COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。
3. Hadoop ジョブを実行するサーバに COBOL アプリケーションを配置します。
4. Hadoop ジョブを実行します。

### Interstage Big Data Parallel Processing Server と連携する場合



#### 【開発環境】

クライアント環境では、Windows (32bit)環境 PC (5 台) で開発環境（NetCOBOL Studio）を使って、リモート開発します。

開発・テストサーバ（Linux (64bit)： 8 プロセッサ）において、クライアント環境で作成した COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。

#### 【本番環境】

テスト終了後、開発実行環境サーバ（Linux (64bit)： 8 プロセッサ）に COBOL アプリケーションを転送します。

開発実行環境サーバ（Linux (64bit)： 8 プロセッサ）で、Hadoop ジョブを実行します。

スレーブサーバ（Linux (64bit)： 8 プロセッサ、3 台）によって分散処理されます。

## 必要ライセンス

Windows の NetCOBOL 開発環境製品はインストール台数従量制、Solaris の NetCOBOL 開発環境および運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。NetCOBOL 製品のライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

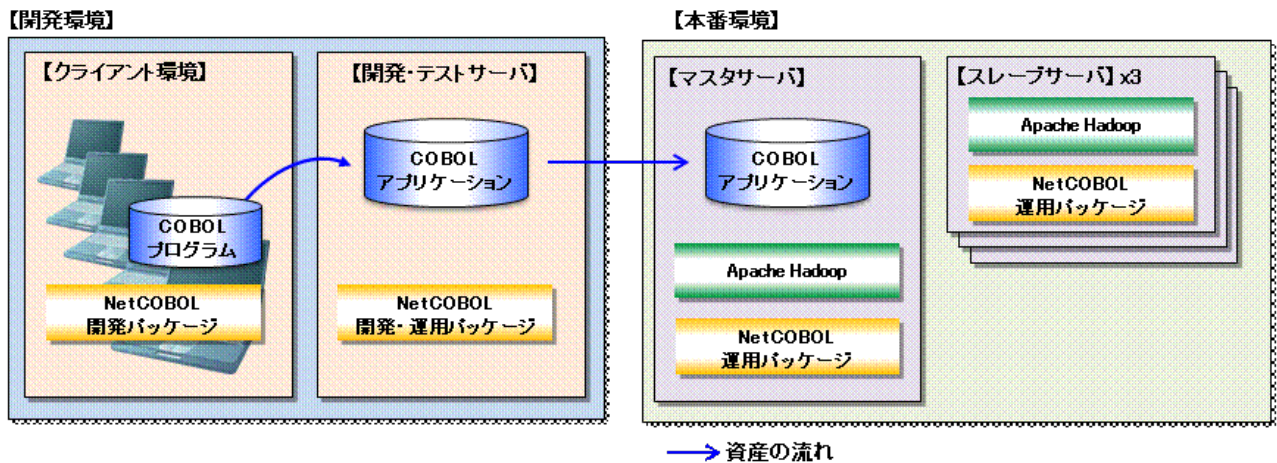
64bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Windows NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ (32bit) <b>(注1)</b>	5
開発・テストサーバ	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (64bit)	8
開発実行環境サーバ	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (64bit)	8
スレーブサーバ	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (64bit)	24
	Interstage Big Data Parallel Processing Server Standard Edition <b>(注2)</b>	24

**注1)** クライアント環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。また、リモート開発の場合は、V10.1.0 以降を使用してください。

**注2)** Interstage Big Data Parallel Processing Server はスレーブサーバのみライセンスが必要です。

## Apache Hadoop と連携する場合



### 【開発環境】

クライアント環境では、Windows (32bit)環境 PC (5 台) で開発環境 (NetCOBOL Studio) を使って、リモート開発します。

開発・テストサーバ (Linux (64bit) : 8 プロセッサ) において、クライアント環境で作成した COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。

### 【本番環境】

テスト終了後、マスタサーバ (Linux (64bit) : 8 プロセッサ) に COBOL アプリケーションを転送します。

マスタサーバ (Linux (64bit) : 8 プロセッサ) で、Hadoop ジョブを実行します。  
スレーブサーバ (Linux (64bit) : 8 プロセッサ、3 台) によって分散処理されます。

### 必要ライセンス

Windows の NetCOBOL 開発環境製品はインストール台数従量制、Solaris の NetCOBOL 開発環境および運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。NetCOBOL 製品のライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

#### 64bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Windows NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ (32bit) <b>(注 3)</b>	5
開発・テストサーバ	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (64bit)	8
マスタサーバ	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (64bit)	8
スレーブサーバ	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (64bit)	24

**注 3)** クライアント環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。また、リモート開発の場合は、V10.1.0 以降を使用してください。

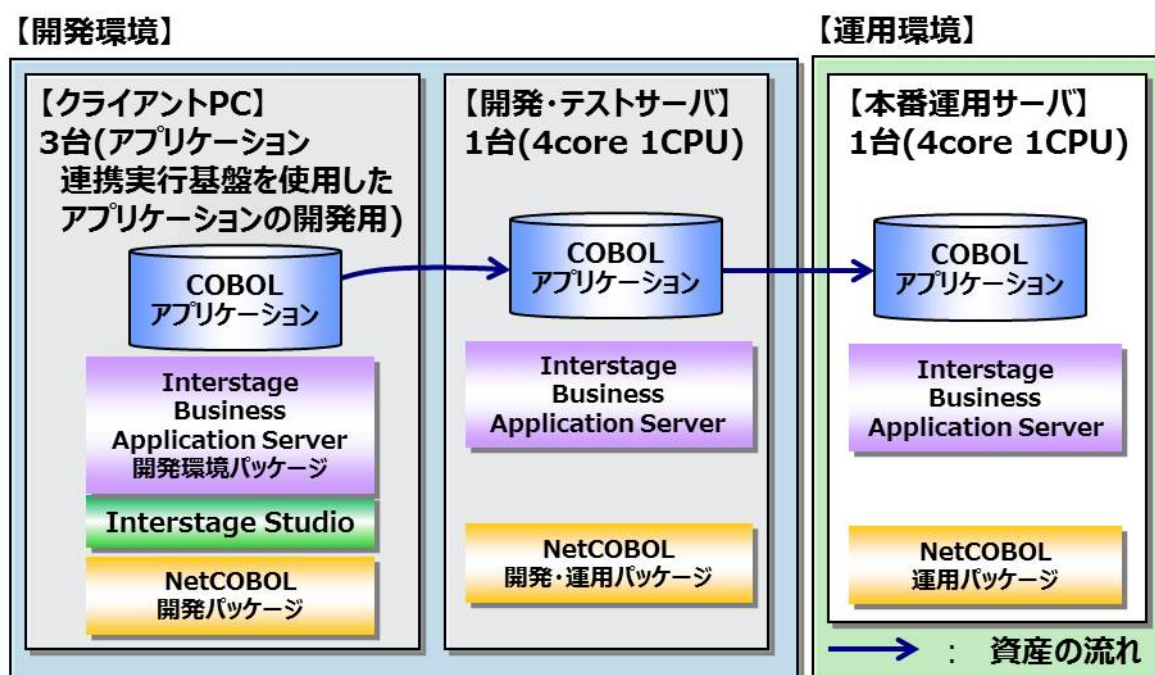


### 3. Interstage Business Application Server と連携したアプリケーションを開発する場合

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に説明します。

1. クライアント環境にある各 PC で、COBOL アプリケーションを開発します。
2. 開発・テストサーバで、各 PC の COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。
3. 運用サーバに COBOL アプリケーションを配置し、運用します。

#### 開発・運用環境



#### 【開発環境】

クライアント PC は Windows (32bit)環境(3 台)で、Interstage Studio を利用しアプリケーション連携実行基盤を使用して COBOL アプリケーションを開発します。

開発・テストサーバ (Linux : 4core 1CPU) に、クライアント PC で作成した COBOL アプリケーションを、リモート開発機能を使用してコンパイル・リンクし、配備してテストを実施します。

#### 【運用環境】

テスト終了後、運用サーバ(Linux : 4core 1CPU)に COBOL アプリケーションを転送後、配備して運用します。

## 必要ライセンス

Windows の NetCOBOL 開発環境製品はインストール台数従量制、Solaris の NetCOBOL 開発環境および運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。NetCOBOL 製品のライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

### 64bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Interstage Business Application Server 開発環境パッケージ(注1)	-
	Interstage Studio Standard-J Edition(注2)	2
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit) (注3)(注4)	3
開発・テストサーバ	Linux (64bit) Interstage Business Application Server Standard Edition	2
	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (64bit)	2
運用サーバ	Linux (64bit) Interstage Business Application Server Standard Edition	2
	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (64bit)	2

**注 1)** Linux (64bit) Interstage Business Application Server Standard Edition に同梱されています。

**注 2)** Interstage Business Application Server に同梱されています。(1 ライセンス利用可能です)

**注 3)** アプリケーション連携実行基盤を使用しないアプリケーションは、NetCOBOL Enterprise Edition 以外のエディションでも開発可能です。

**注 4)** リモート開発機能が利用可能なバージョンをご確認ください。

### 32bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Interstage Business Application Server 開発環境パッケージ(注1)	-
	Interstage Studio Standard-J Edition(注2)	2
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit)(注3)	3
開発・テストサーバ	Linux (32bit) Interstage Business Application Server Standard Edition	2
	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (32bit)	2
運用サーバ	Linux (32bit) Interstage Business Application Server Standard Edition	2
	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (32bit)	2

**注 1)** Linux (32bit) Interstage Business Application Server Standard Edition に同梱されています。

**注 2)** Interstage Business Application Server に同梱されています。(1 ライセンス利用可能です)

**注 3)** アプリケーション連携実行基盤を使用しないアプリケーションは、NetCOBOL Enterprise Edition 以外のエディションでも開発可能です。



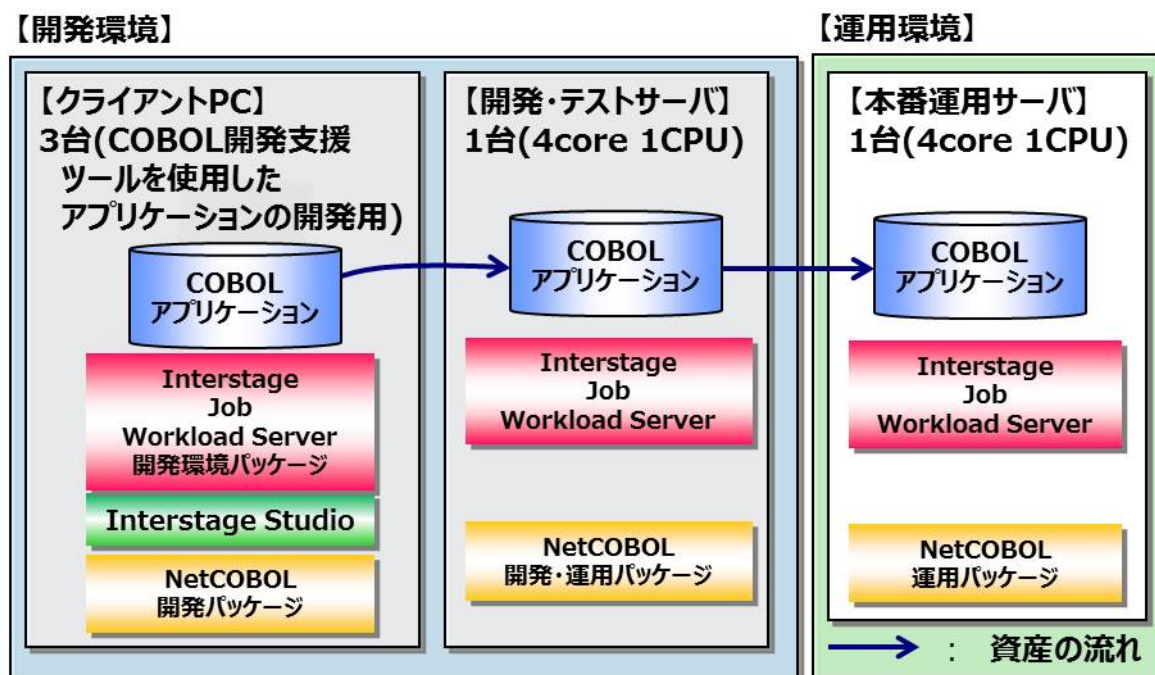
ションでも開発可能です。

## 4. Interstage Job Workload Server と連携したアプリケーションを開発する場合

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に説明します。

1. クライアント環境にある各 PC で、COBOL アプリケーションを開発します。
2. 開発・テストサーバで、各 PC の COBOL アプリケーションのテストを実施します。
3. 運用サーバに COBOL アプリケーションを配置し、運用します。

### 開発・運用環境



#### 【開発環境】

クライアント PC は Windows (32bit)環境(3 台)で、Interstage Studio を利用し COBOL 開発支援ツールを使用して COBOL アプリケーションを開発します。

開発・テストサーバ (Linux (64bit)、4core 1CPU) において、クライアント PC で作成した COBOL アプリケーションを、リモート開発機能を使用してコンパイル・リンクし、配備してテストを実施します。

#### 【運用環境】

テスト終了後、運用サーバ(Linux (64bit)、4core 1CPU)に COBOL アプリケーションを転送後、配備して運用します。

## 必要ライセンス

Windows の NetCOBOL 開発環境製品はインストール台数従量制、Solaris の NetCOBOL 開発環境および運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。NetCOBOL 製品のライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

64bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	本数
クライアント環境	Interstage Job Workload Server 開発環境パッケージ <b>(注 1)</b>	-
	Interstage Studio Standard-J Edition	3
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit) <b>(注 2)(注 3)</b>	3
開発・テストサーバ	Linux (64bit) Interstage Job Workload Server	2
	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (64bit)	2
運用サーバ	Linux (64bit) Interstage Job Workload Server	2
	Linux NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (64bit)	2

**注 1)** Linux (64bit) Interstage Job Workload Server に同梱されています。

**注 2)** COBOL 開発支援ツールを使用しないアプリケーションの開発は、NetCOBOL Enterprise Edition 以外のエディションでも開発可能です。

**注 3)** リモート開発機能が利用可能なバージョンをご確認ください。